

第6章 基盤の強化

1 経営健全化（アセットマネジメント）

➤ 取組方針

中長期的な視点から施設、財務、組織、人材等の経営基盤を強化し、公共下水道事業を将来にわたって安定的に継続させることを目指します。

中長期的な視点に立って本ビジョンと併せて策定する「経営戦略」に基づき施設、財務、組織、人材等の経営基盤を強化します。

1) 長期的な経営計画の策定

宝塚市下水道ビジョン 2025 の策定に併せ、施設、財務に関する「経営戦略」を策定します。この戦略に基づき経営の健全化、安定化に取り組みます。

2) 事務・事業の効率化・簡素化

管路の老朽化対策と浸水対策を効率的に実施するために、汚水管路と雨水渠のデータベースを構築します。（ストックマネジメントの構築は P32～P33 を参照）

調達方法については、合理的発注制度として、工事にかかる入札業務は電子入札を実施しています。引き続き、委託、コンサル業務についても電子入札の導入に取り組みます。

未収金対策としては、ペイジー口座振替受付サービスの拡大を図るなど、口座振替率の向上を図り、着実な収入の確保に取り組みます。

3) 民間活用

現状の維持管理は、市直営と委託で実施していますが、包括的民間委託(複数業務・複数年契約)へ移行することにより、業務の効率性・迅速性、経済性において効果が期待されます。

今後、先進的に導入している他都市の事例を検証し、本市に最も適した維持管理包括委託の導入に取り組みます。

また、委託可能な事業の委託化を推進するとともに、今後の大規模更新工事に備え、指定管理者制度、PPP・PFI の導入の可能性についても、先進事例等の情報収集を図るとともに、「多様な PPP/PFI 手法導入を優先的に検討するための指針」(平成 27 年(2015 年)12 月 15 日 民間資金等活用事業推進会議決定)を踏まえながら、より積極的に研究・検討を進めていきます。

4) 組織の見直し・適正な人員配置

定員適正化計画に基づき、これまでの職員定数管理の実績や今後の行政需要の動向を勘案しながら、事務事業執行の効率化等を踏まえ、職員定数の適正化を図ってきました。

引き続き、現状の組織や業務等を見直し、簡素で機能的な組織の編成に努めます。さらには、一層の給与の適正化を図るなど、総人件費の抑制に取り組みます。

5) 職員の資質向上

今後、限られた人材資源のなかで施設の老朽化や大雨や大地震に対応していくためには、組織力のさらなる向上が必要であり、組織における重要な行政資源である「職員＝人材」の確保、育成、活用のシステムを見直し、総合的な人材育成システムを構築していく必要があります。本市では「宝塚市人材育成基本方針」を策定し、人材育成システムの構築などに取り組んでいます。今後もこの人材育成基本方針に従い、職員の意識改革や意欲の向上を図ります。

6) 技術の継承

下水道事業は、生活環境と水質保全や浸水防除による市民生活の安全と安心を確保するために事業の継続性が求められます。そして、いかなる状況においても適切に対応できる危機管理能力と技術的能力を必要とします。このためにも、技能の向上を図るとともに技術の継承が必要です。今後とも、技術職員を確保するとともに、事業遂行に必要な知識や技術を継承していくために必要な研修の充実を図ります。

7) 広域化

施設・設備・管路の長寿命化により、今後の更新投資を抑制するよう努めているところですが、今後も更なる更新費用の抑制を検討し、経営の健全化に努める必要があります。その一つの手法として、広域化の考えのもと、近隣都市等との連携による施設の共同利用化（ハード面）、管理の一体化やシステムの共同化（ソフト面）などにより、重複投資を避け投資効率を向上させるとともに管理面の強化を図ることが考えられます。

今後は、従来の事業統合による広域化にとらわれず、広域化のイメージを発展的に広げ、近隣の事業体間での連携等についても、より積極的に取り組みます。

2 市民参画（クライシスマネジメント・アセットマネジメント）

➤ 取組方針

今後、限られた資源と財源の中で、公共下水道事業を健全に実施するためには、市民との協働が必須です。市民との協働を円滑化するために、市民による下水道の「自分ゴト化」を目指します。

市民のみなさんに下水道事業に関する理解を深めていただくことや、防災意識を向上していただくため、コミュニケーションの充実や情報発信に努めています。

1) コミュニケーションの充実

ホームページ、広報紙等を活用し、市民に有用な情報を提供するとともに、今後も引き続き上下水道モニター会議を実施し、その内容の充実を図るなど、より一層の市民とのコミュニケーションの充実への取組みを進めます。

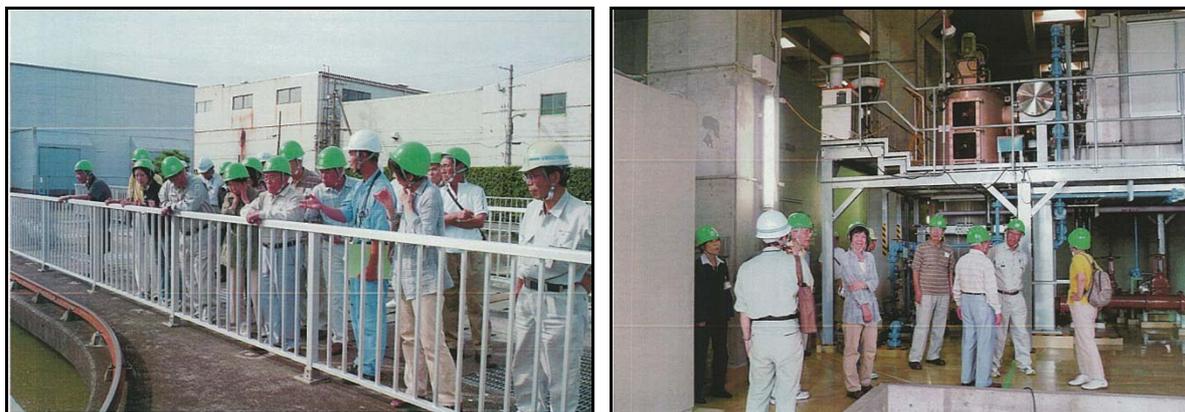


図- 30 下水道施設見学会の様子(武庫川下流浄化センター)

出前講座では、今後はワークショップ形式を取り入れるなど、講座内容の充実を図り、市民による下水道の「自分ゴト化」の醸成を目指します。



図- 31 出前講座の状況

2) 浸水対策への参画

気象の変化により、昨今のゲリラ豪雨と呼ばれるような計画降水量以上の豪雨が発生しており、これらの災害に対して、市による公助のほかに、自助・共助による対策の重要性が高まっています。市民が、自分の命や財産は自分で守るという「自助」や、協力して互いの命や財産を守るという「共助」(図- 32 参照)に取り組むことができる仕組みを構築していきます。仕組みの構築のために、まず内水ハザードマップ(P29 参照)を作成し、宝塚市防災マップに加えて公表します。

また、雨水貯留施設設置助成金制度を今後も継続し、出前講座などの機会を活用した災害に対する心構えなどの防災学習、避難訓練参加などへの呼びかけに取り組みます。



出典：宝塚市防災マップ

図- 32 自助・公助・共助による災害対策

3) 市総合防災訓練

市では毎年1月に総合防災訓練を実施しています。訓練は拠点指定避難所である末広中央公園で行われ、近隣の自治会の方々も多く参加し、応急給水訓練や消火訓練などに取組んでいます。末広中央公園では、避難者向けに下水道管への直結仮設トイレが設置できるよう整備しています。



図- 33 下水道管への直結仮設トイレ